

研究テーマ：英語学習への興味・関心が薄れた生徒たちへの指導・援助の工夫

所属 高知市立西部中学校
氏名 鍋島 知人
R G J H 5

1 研究の背景

本校の多くの生徒には、授業に参加し、わかろうとする姿勢が見られる一方、英語が苦手であったり表面的には英語に関心を示さず、授業に集中しない生徒や、途中退室・途中入室を繰り返す、あるいは1時間中姿を見せない、いわゆるエスケープの生徒たちも見られる。この生徒たちを含め、全員が参加し、わかる授業をとの思いから、上記のテーマを選んだ。

2 リサーチクエスチョン

英語学習への興味・関心が薄れた生徒たちへの指導・援助をどのようにすればよいか。

3 予備調査**予備調査1 授業観察の結果**

- 目標を「全員参加の授業」とした2学年全クラスによる校内研に合わせて指導案（別紙）を作成し授業公開した。この研究授業に向けて、学級担任はもとよりこのクラスに関わる多くの教員の支え・励ましがあつたことから、エスケープぎみの生徒も授業開始から終了まで退室することはなかったが、乗ってくるであろうと予想した（乗せなかった）生徒が十分な反応を示さず、活動の多くの場でやや下を向いたままであつた。ふだんからの学習内容や指導方法、関わり等に改善すべき点が多

々あることを痛感した。

予備調査2 英語力を示すデータ

- エスケープ気味あるいは授業に集中できていない生徒たちは全体的にかなり低い成績である。

4 仮説の設定**(1) 仮説**

- 仮説1：個々のつまずき（いつ、何に、なぜ等）を明らかにし、それらを一つずつ解決していけば、学習意欲の向上につながるのではない。
- 仮説2：短時間であっても、毎時間、興味・関心の薄れた生徒たちが活躍（理解）できる場を設定すれば、少なくとも完全な学習放棄（授業エスケープ）はしなくなるのではない。
- 仮説3：教科書に掲載されているものと合わせて、「これはおもしろい。」「なぜ？」「もっと知りたい。」などと思わせるような英語圏文化等に関するものを必要に応じて提示すれば、英語学習そのものへの興味・関心を高めることができるのではない。
- 仮説4：生徒同士および生徒・教師間のよりよい人間関係をつくれば、ともに楽しく学べる学習の場ができるであろう。

(2) 実践の方法

- 個々の生徒から聞き取り調査を実施し、C R Tも参考にして、一人ひとりに今何が必要なのかを具体的に提示する。
- 常に、生徒の側から授業を分析し、よりわかりやすい授業の構成を考える。
- 生徒たちのつぶやきを大切に、生徒の側からの授業評価も積極的に取り入れる。
- よりいっそうの教材研究に励み、興味・関心の薄れた生徒たちが活躍（理解）できる場面を設定するとともに、英語学習は楽しいと思わせるネタを常に見つけ、提示していく。
- グループ活動を積極的に取り入れ、理解に時間がかかったり、とすれば授業への集中がとぎれ（かけ）ている生徒たちへの援助をしていく。

5 計画の実践

今回の研究対象は少人数対応で実施している2年生としたが、諸事情により、この計画の実施

にやっと重い腰をあげたのは、2学期の終わり、12月になってであった。授業に活かすべく、慌てていくつかの簡単なアンケートをとった（内容、結果の詳細は別紙）。そのなかの1つ、「

みんなが楽しく、わかる授業にするためにはどうしたらよいか」の問いに対して、「資料を増やす。」「いろんな資料を見せてほしい。（写真とかお土産物とか）」等の回答があった。時間的にも、これしか残されていなかった。教科書の学習内容が、ちょうどクリスマスカードを扱った場面でもあり、以前、高知市内の中・高生とともにフレスノへ短期留学したときの写真とホームステイした家族からのクリスマスカードを持参、授業の前半は教科書の内容について学習したあと、それらを提示した。

6 実践の結果

教科書の聖母マリアがキリストを抱いたカードやサンタがサーフィンをしていることにも興味や関心があったのか、文法的な説明も含め、生徒たちはよく授業に集中（参加）していた。

また、後半、少し解説を加えたあと、順番に回したクリスマスカードやフレスノで撮った写真を見ている生徒たちの少し驚きをもった生き生きとした、また嬉々とした姿は印象的であった。授業後の感想は、「写真がおもしろかった、楽しかった、見ることでできてうれしかった。」が多数で、中には「先生が若かった。先生が若いのでびっくりした。」というのもあった。

そして何よりの収穫は、アンケートで、どんなときに「わかった」と思うかとの問いに対し「

まじめにやったとき」、「みんなが楽しく、わかる授業にするためにはどうしたらよいか」との問いに対して、「授業中、英語を個人で教える。」と答えた生徒（この生徒は1年の途中からつまり、普段は私語が多いなど授業に集中できず、よく注意される一人であり、時たま、突然の彼女のつぶやきや質問にはできるだけ答えているものの、その後はすぐもとの状態にもどってしまうが、英語を完全にあきらめてはいない）が、この授業ではまったく個人的な指導はしていないにもかかわらず、「（今日の授業は）けっこう分かった。授業に参加した。」と答えたことである。また、感想として「英語はキライやけど、一人の世界に入ったら、かなり集中してできることが分かった。キライな教科ほど、周りの音が聞こえんほど集中できる。」と書いていた。これは、他の生徒と私語等をせず授業に集中すれば、ある一定、授業が理解できることに自ら気付いたということで、彼女にとって、そして私自身にとってひじょうに有意義な時間であったと思う。

7 結果の検証

クリスマスカードや写真を見せることを予告し、それを期待していたせいもあってか、前半も思った以上に生徒たちは授業に集中していた。授業後の簡単な個人の授業評価では、「ふつう以上にわかった」と答えた生徒が約半数、「ふつう」が半数、「ふつうよりやや分からなかった」生徒が1名だった。また、「授業に集中（参加）できたか」の問いに対しては、ほぼ全員が「集中（参加）できた」と回答した。

これらの結果（回答）から『後のお楽しみ』の効力がどれほどのものであったかは定かではないが、前半の授業ではほとんど普段と変わらない内容や流れであったことから、多少なりとも影響を与えたと見ていいのではないかと。言い換えると、学習意欲や理解度はその授業（内容）への期待度にも左右されるということになるだろうか。

しかし、カードや写真の提示で生徒の学習意欲や興味・関心が高まったのであれば、いかにこれまでの授業が楽しくないものであったか、また、資料1つをとってみても、いかに生徒たちを飢えさせていたかということでもあり、しっかりと反省しなければならない。

8 成果と今後の課題

率直に言って、成果といった成果をあげることができなかった。その前に、それにつながる実践自体ができなかったという方が正しい。ただ、強いて挙げるとすれば、ようやく2学期末に、そしてかなり強引ではあったが、2年生の2クラスとは言え、なんとかクラスの一部ではなく、全員から授業に関する意見や感想を聞くことができたことである。これは周りから見れば、取るに足りないことであろうが、15年ぶりに自身が主体となつての英語の授業をすることになった私自身にとっては大きな一歩になったと思う。

成果に引き替え、今後の課題は数限りなくあるといっても過言ではない。実践の方法として挙げたいいくつかの内の一部も今のところ十分にできていない。常に、頭のどこかにはこの「授業改善プロジェクト」があったものの、何とかしなければという思いが先走り、部分的なことをした以外、系統だった計画的な実践には結びつかなかった。

また、進路関係、生徒指導関係、部活動、校務分掌等、諸々の用務とともに、授業実践をしなければならない実態は誰にもあるのだろうけれども、これらすべてではないにしろ、何とかならないものかとも思う。

何はともあれ、「分かる、楽しい、全員参加の授業」をめざして、いかに授業改善のための時間を作り出し、実践を重ねていくか、しかも健康的に。これが私にとっての当面かつ重要な課題である。